

家族心理学

単位数	履修方法	配当年次
2	R or SR	1年以上



科目コード **FC2515** 担当教員 **西野美佐子**

■科目の内容

家族は、社会を構成する基礎的集団です。近代社会の中で、家族は徐々に縮小化し、孤立化してきており、これまで家族が果たしてきた役割は試練に立たされています。家族の形態や営みは、その国の歴史的・社会的・経済的影響を受けさまざまな様相を示しますが、人は家族の中で生まれ、家族メンバーが織りなす心理構造の中で成長し、やがて死を迎えます。

家族心理学では、家族のライフコースと発達段階、そのあと、夫婦、親子、きょうだい、そして多世代関係などの家族内心理構造について、そして、次世代を生き育てる営みであるペアレンティング（親らしい行動）の形成について学びます。さらに、システムアプローチに基づいた家族臨床の問題として、児童虐待・家庭内暴力・非行や自殺、子どもの神経症などを引き起こす家族病理、さらに家族への援助や指導が的確になされるために、家族関係のアセスメントと家族関係への心理的介入などについて学ぶことをねらいとします。

■到達目標

- 1) 家族という複雑な有機体の中に人は生まれ育ち、人格を形成し、やがて配偶者を得て、子どもを産み育てることを通して人間的に成長していく、家族発達の概要を説明できる。
- 2) その発達過程で家族や家族メンバーに生じる心理的諸問題を、メンバーの関係性から理解し、家族心理学の理論的背景となっているシステム論的思考から説明できる。
- 3) 家族を理解するためのアセスメントや介入の方法として短期療法の基礎的スキルを使用できる。

■教科書

岡堂哲雄編『家族心理学入門（補訂版）』培風館，1999年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	家族心理学とは①（序章 家族心理学の課題と方法 6章6-2 家族形態の変化 6章6-5 現代の多世代家族とその問題）	家族心理学とは、家族にかかわる心理学的諸現象を研究する学問で、そのよって立つ理論、システムズ・アプローチを知る。 キーワード：システムズ・アプローチ	現代家族が直面している危機を理解すると同時に家族心理学が誕生してきた社会的背景を知り、家族心理学の研究課題 ①個人と家族の発達段階を解明する、②個人および家族が危機に直面した時、いかに対応するかの方法を解明する課題を理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	家族心理学とは② (第1章 1-2 家族の心理構造を理解する鍵概念)	人の営みは社会的状況というオープンなシステムにおいてなされるのであり、そこでの部分と部分は相互的に依存し、影響を与えあい、循環的に変化するものであることを理解する。 キーワード：全体性、階層性、一般システム理論、家族システム	家族を構造的に理解する上での理論的な根拠となる、循環的な動き、家族システムとその変化について理解してください。つまり、システム論的観点、家族を理解する鍵概念を、事例を基に具体的に理解してください。
3	家族のライフコースと発達段階 (第7章 7-3 危機理論による家族発達課題論 7-4 変化の理論による家族発達段階論)	すべての家族は、そのライフコースを通して一定の諸段階を経過して発達します。家族発達の各段階には、その段階の生活現象があることを理解する。 キーワード：発達、構造、機能、家族発達段階、形態維持、形態発生	各家族発達の段階には特定の課題があり、家族にはそれを克服していくことが期待されます。新しい変化に適応できない時は、問題状況が出現します。ある段階の課題が十分に適応できないで次の段階に進むと、次の段階の課題解決は一層難しくなるものです。家族発達段階の課題と解決への取り組みを通して、家族の持つ特質を理解してください。
4	家族に降りかかるストレス (スクリーニング受講者は配布する資料 受講者以外は参考図書1) 2) 参照)	家族とその中に生きる個人に降りかかるストレスを、大小さまざまなシステムの縦軸と時間軸を基軸として理解する。 キーワード：垂直的ストレス、水平的ストレス	家族を取り巻く大小さまざまなシステムから受けるマイナスの影響を垂直ストレスと呼びます。また、これらの縦方向からかかる様々な荷物を背負った個人が、時間軸上を旅する中で遭遇するストレスを水平的ストレスと呼びます。家族が遭遇するストレスを理解し、それらの軽減をいかに図るかを具体的に事例を基に理解してください。
5	家族の心理構造① (第1章 1-1 全体の中の個人、全体の中の家族 1-2 家族の心理構造を理解する鍵概念)	家族の心理と家族メンバーの心理を理解するには、構成員間の関係と、また、構成員とそれを取り巻く環境との関係から理解することが重要である。 キーワード：境界、纏綿状態、遊離状態、連合、パワー	家族というシステムは、家族のメンバー間、家族と社会との間に構築されている人間関係のルールによって、理解することができます。また、家族内のメンバーのつながり方やどんな役割を担っているのかから理解することができます。ここでは、家族の役割関係の特徴づけているルールについて基礎的なことを理解してください。
6	家族の心理構造② (第2章 2-1 家族相互作用の過程 2-2 家族内コミュニケーション 2-3 心理的変化の過程)	家族の日常生活で切り返される心理的過程は、同時に家族メンバー相互のコミュニケーションの過程である。家族内で展開される特有のコミュニケーションを理解する。 キーワード：直線的因果論、円環的因果論、コミュニケーションのネットワーク	家族内コミュニケーションは、きわめて複雑で、しかも曖昧なものである。そこで、家族内で展開されるコミュニケーションの過程をネットワーク・システムとみなす必要性があります。また、家族の様々な危機は、家族メンバー相互の推測のずれが原因であることも少なくありません。そこで家族をうまく理解するためには、複眼的視野が重要であることを理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	恋愛と配偶者の選択 (第8章 8-1 対人魅力の形成 8-2 好意と愛情 8-3 恋愛の進展)	家族を形成する前提として、相手に対する行為や対人魅力が存在していることを理解する。 キーワード：アイデンティティの確立、類似性、相補性	現代では結婚の大部分が恋愛結婚です。恋愛や結婚の基底にある対人魅力はどのような要因によって形成されるのか、親密な対人関係を持続する進行過程を理解してください。同時に、恋愛の進展、そして離婚等に至る崩壊の段階や終わりの段階も理解してください。
8	夫婦関係の心理 (第3章 3-3 夫婦関係理解の歴史的枠組み 3-4 夫婦関係理解の構造的枠組み)	家族内における基本的サブシステムとサブシステム内の人間関係はいくつかある。その中で家族の大黒柱とも言うべき夫婦関係を理解する。 キーワード：勢力性、親密性・伴侶性	一組の男女が出会い、お互いにコミットし、カップルとなってから、カップルの一方が死去するまで夫婦関係は継続します。 家族は最初の蜜月期には「親密性の確立」は容易ですが、拡張期になると喪失体験も加わり、妥協や努力が求められる時期もあります。夫婦の愛の基本要素は、E. フロムによると、配慮、責任、尊敬、理解が必要であることを理解し、愛情は情熱ではなく意志を伴う行為であることを理解してください。
9	父性・母性とペアレンティング① (第9章 9-2 自己実現と父親・母親の役割の葛藤)	子どもの誕生は、夫婦に幸福感をもたらす、子どもは両親の愛情に包まれ、健やかに成長していく。しかし、子どもの誕生は必ずしも夫婦に幸福感のみをもたらすとはかぎらない。子どもを産み育てる家族が直面する課題について理解する。 キーワード：役割葛藤、親役割、ワークライフバランス	女性は妊娠を知った時に、自分が母親になるのだということを受け入れる。父親が、父親になることを自覚するのはどこから生まれるのだろうか。子育てする夫婦は、妊娠と出産、仕事と育児・家事のバランスなど、お互いのもっている子育て観を調整すること、夫婦としての親密さを回復すること、などさまざまな課題に直面する。このように親になることの時期に遭遇する様々な課題にいかに向き合うのか理解してください。
10	父性・母性とペアレンティング② (第9章 9-3 父性・母性の成長過程 9-4 子どもの発達とペアレンティングの変化)	父親が子育てに積極的に参加する事が母親の子育てや子どもの発達にどんな影響を与えるのか。父親と母親は親になることによって、どんな成長・発達をもたらすのか？ キーワード：柔軟さ、自己統制、視野の広がり、伝統の受容、生きがい・存在感、自己の強さ	父親と母親の育児時間は、1日の中でどのくらい費やしているのか調べてみましょう。そして、親になることの成長発達として、柔軟さやタフさが生まれ、自己抑制や協調性が高くなった、あるいは視野が広がったや運命や信仰などの伝統を重視するようになったや謙虚さが生まれたなどの報告がある。親になることの成長・発達について理解し、説明できるようにしてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	家族問題と家族心理 (第12章 子どもの家庭内暴力と家族心理 第15章 子どもの神経症・人格障害と家族心理)	子どもの神経症や不登校や家庭内暴力など子どもにかかわる家族問題を円環的に理解し、解決に向けた方法について理解する。 キーワード：児童虐待、家庭内暴力、不登校、ひきこもり、DV	家族の中の子どもの問題発生をめぐる悪循環の円環的行動の連鎖系への治療的介入について理解してください。 家族メンバーとの関係性からアプローチする円環的因果律の立場をとる介入と、直線的因果律の個人心理療法の介入、この2つのアプローチを統合する立場が今介入には求められていることを理解してください。
12	家族関係の心理的査定① (第18章 18-2 アセスメントのための理論)	家族心理学のアセスメントの対象は、言うまでもなく家族である。アセスメントとは、家族の否定的な側面だけでなく、健康な側面も含めて、対象の状況や状態の把握、より広い視野から捉えなおし表現することを理解する。 キーワード：主訴、家族の歴史、ルールと役割、エコマップ	家族のアセスメントを、まず家族内の特定の間人関係に焦点を当てて、そこをアセスメントする接近方法を理解してください。「母-子」「夫-妻」のように個別に取り上げ、「母から見た子ども」「子から見た父」のように個人を出発点にあって、そこから見た家族ないしは家族メンバーを対象として行われるものです。
13	家族関係の心理査定 (第18章 18-3 アセスメントの方法)	家族のアセスメントの中で、家族を単位として、家族全体やそのシステムをアセスメントする方法を理解し使用できるようになる。 キーワード：世代関係図(genogram)、オルソンの円環モデル、図式法	家族を総体としてアセスメントしようとする方法、家族メンバーの問題を家族の関係性のあり方から捉える技法を習得してください。家族関係が投影されるような投影法的アセスメント、質問紙で家族の適応度と凝集性の2軸から家族機能を理解しようとする技法、家族関係を図式化して理解する方法など、実習を通して理解してください。
14	家族関係への心理臨床的介入① (第19章 19-5 ベイトソンとその後継者 19-7 システムック・アプローチ)	家族が何らかのつまづきに出会ったとき、どのような支援をするのかという観点から、家族への援助の基礎を理解してください。 キーワード：家族面接、エンアクトメント、ジョイニング、多方向の肩入れ、エンパワーメント	家族は、家族メンバーが相互に関わり、さらにその他の社会システムとの相互作用による変化の中で成長している。家族の発達を促進するために、心理的援助や働きかけが必要である。ここでは、課題を抱えている家族、あるいは葛藤で苦しんでいる家族への心理的援助をするための最初のかかわりを理解してください。
15	家族関係への心理臨床的介入② (第20章 20-1 短期療法の原理)	米国カリフォルニアのMRIで生まれ、発展してきた短期療法の7つの鍵を理解し、日常生活で使えるようになる。 キーワード：短期療法、パラドキシカルアプローチ、リフレーミング	短期療法(Brief therapy)とはどういう家族療法か、解決志向であり、そしてその中心的に技法、例えばパラドキシカル・アプローチ、ミラクルクエスチョン、スケーリング、黒字ノート等を理解し、日常生活場面で使用できるようにしてください。

■レポート課題

1 単位め	家族の発達段階について、それぞれの時期に家族メンバーが直面する危機（発達課題）について、具体例を示して考察し、その解決には何が求められるのか家族のもつ心理構造から説明しなさい。
2 単位め	家族病理について述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題

■アドバイス

1 単位め アドバイス

心理学的にみると、家族発達の各段階にはその段階固有の生活の姿があり、家族メンバーは適応と変化を求める課題に直面します。これは家族に緊張と動揺をもたらしますが、この課題に取り組み、新しい段階に適応した再組織化をすることで危機を脱し安定した状態に達することができます。もし、家族が特定の段階のありようにしがみつぎ、変容を受け入れずその課題の解決が十分なされないで次の段階に進むと、次の発達段階の課題解決も一層難しくなるでしょう。ここでは、これまで提示されてきた主な家族発達段階論を学び、そのうえで家族ライフコースの諸段階の特徴をまとめてください。

テキストでは家族の誕生から崩壊までを6段階の家族発達段階モデルで説明しています。第1段階は新婚期、第2段階は出産・育児期、第3段階は子どもが学童期の時期、第4段階は子どもが10代の時期、第5段階は子どもが巣立つ時期、第6段階が加齢と配偶者の死の時期です。その発達段階で生じやすい問題行動や心理的症状を理解し、家族の健全な発達を促進する心理教育的方法を探求してください。そのために、家族の心理構造を理解するための鍵概念は、境界、連合、パワー、そして家族内コミュニケーションのあり方や家族の地位に見合った期待される役割などです。これらの鍵概念をひも解きながら各発達段階の家族の心理構造についてまとめてください。

2 単位め アドバイス

人は誰でも、家族という複雑な有機体の中に産み落とされ、そこで成長発達していきます。また人は誰も自分の周囲を見渡すと、自分の父親・母親の家族、さらに世代の違う祖父母の家族など多くの家族に出会います。

個人の成長発達の理解は、家族という心理的な構造を持った集団との関連や、家族を取り巻くコミュニティや社会、さらに大きな生態系との関連で理解することが不可欠です。

この考え方から家族病理を考えると、家族というシステムは、家族メンバー間の関係と、それを取り巻く環境との間で作られている人間関係等によって理解することができます。たとえば、夫婦は家族の中で父親と母親という役割も担うが、社会や家族とどのようなつながり方をし、どのような形でそれぞれの役割を果たしているのか、親たちにとって子どもとの関係はどんな関係を作り出しているのか、多世代家族では原家族の親たちと娘・息子家族メンバーとの関係を規定しているのは何か、その家族特有な、あるいはどの家族にも見られるルールやコミュニケーションのやり方が見分けられれば、家族関係、家族病理を理解する手立てとなるでしょう。家族病理の事例に基づきその家族の心理構造を論じてください。

■科目修了試験 評価基準

キーワードの意味や問われている内容の理解ができているかを基本に評価する。成績評価においては、レポート10%、試験90%によって総合的に評価をする。

■参考図書

- 1) 平木典子・中釜洋子著『家族の心理 家族への理解を深めるために (ライブラリ 実践のための心理学3)』サイエンス社, 2006年
- 2) 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子著『家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣, 2008年

その他は教科書に参考提示してある文献をみてください。